

平成 20 年度

経済局予算要求方針

- 目 次 -

1	平成 20 年度経済局予算要求総括表	1
2	20 年度予算要求にあたっての基本的考え方	2
3	予算要求の重点事項	3
	(1) 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街	
	(2) 安全・安心で、人と環境にやさしい街	
4	事務事業の見直し等	9
	(1) 事務事業の見直し	
	(2) 事業の選択と集中	

1 平成 20 年度経済局予算要求総括表

【一般会計】

(単位：百万円)

区 分	平成 19 年度 予 算 額 A	平成 20 年度 要 求 額 B	増 減 額 B - A	増減率 (B - A) / A
産業振興部	86,185 (1,096)	85,487 (1,573)	698 (477)	0.8% (43.5%)
雇用推進部	1,734 (297)	1,719 (281)	15 (16)	0.9% (5.4%)
農務部	420 (371)	388 (342)	32 (29)	7.6% (7.8%)
合 計	88,338 (1,765)	87,594 (2,196)	745 (432)	0.8% (24.5%)

()内は一般財源額

この資料中の金額は、各計数ごとの四捨五入で表示しています。したがって、内訳と累計値とは一致しない場合があります。

2 20年度予算要求にあたっての基本的考え方

全国的な景気回復基調と比べると依然、厳しい経済情勢・雇用環境にある中で、20年度予算要求にあたり、経済局では次に掲げる項目に重点を置いた予算要求をしている。

1 第2次さっぽろ新まちづくり計画の実現と

局マネジメントにおける事業のスクラップアンドビルド

第2次札幌新まちづくり計画における政策目標「主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街」の実現を目指し、計画に位置づけられている事業へ重点を置いた予算要求をしている。

経済局の事業は、市民や企業のニーズ、経済情勢、本市の厳しい財政状況、事業効果、事業の必要性などを総合的に勘案し、積極的に事業のスクラップアンドビルドを行うことで、必要な事業に必要な予算を配分している。

2 行財政改革プランの確実な実現と

その他の事業の積極的な見直し

今後、見込まれる本市の収支不足を補うために、行財政改革プランに盛り込まれた項目については確実に実現するとともに、プランの実現のみに満足せず、見直しの前倒しやさらなる見直しの方法を検討し、予算要求に反映している。

行財政改革プランに盛り込まれていない事業についても、積極的な見直しを図った上での予算要求を行なっている。特に、公費投入の必要性や費用対効果という観点からの見直し、民の発想や活力を生かした事業スキームへの見直し、国や関係機関等との連携可能性の模索などを中心とした事業の見直しを検討し、予算要求に反映している。

3 予算要求の重点事項

(1) 主体的な活動が生まれ、経済の活力みなぎる街

市内企業の9割以上を占める中小企業を中心に資金調達や販路拡大、新分野進出などを様々な側面から支援するとともに、国内外との競争、差別化を見据え、札幌の特性を活かした魅力ある新産業を育成・振興していくことで、足腰の強い経済の活力みなぎる街を目指す。

また、起業というチャレンジに意欲のある市民への積極的な支援や雇用機会の確保、労働に関する問題解決の支援を行うことで、安心して働くことができ、主体的な取組みが生まれる環境づくりを実現していく。

1 札幌の経済を支える企業・人の支援

1,238百万円(191百万円)

注:()内は19年度予算額

ア 元気がんばれ資金貸付金(産業振興部) 992百万円【新規】

長年にわたり地域の発展と雇用の維持・確保に寄与している中で、厳しい経営環境に置かれている市内の小規模事業者に対し、小口の融資制度を新たに創設し、円滑な資金調達を支援する。

【達成目標】

新規融資件数 H18： - H22：300件/年

新規融資金額 H18： - H22：9億円/年

【20年度効果】

300件/年(H19： - H20：300件/年)

9億円/年(H19： - H20：9億円/年)

イ 中小企業ネットワーク構築・推進事業費（産業振興部） 28 百万円【新規】

有識者による賢人会議、経済界フォーラム等の開催や市内企業の訪問を強化することで、地場のニーズを把握し、より実効性の高い中小企業支援施策を推進する。

【達成目標】

賢人会議開催回数 H18： - H22： 3 回 / 年

【20 年度効果】

2 回（H19： - H20： 2 回 / 年）

ウ 地場流通活性化支援事業費（産業振興部） 10 百万円

首都圏での商品見本市への出展支援やセミナー等を実施し、市内中小卸売事業者の販路拡大を支援する。また、花き卸売市場との連携事業として、「花き」の流通環境の調査・分析を行い、花き流通振興のあり方について検討を行う。

【達成目標】

展示会出展企業数 H18： 10 社 H22： 20 社

【20 年度効果】

5 社（H19： 10 社 H20： 15 社）

エ アジア圏等経済交流促進事業費（産業振興部） 43 百万円

情報関連産業や食品関連産業、ファッション関連産業等において、アジア圏諸国との産業ネットワークを構築し、販路拡大や調達コストの削減、人材の相互交流等の支援を進めることで市内企業の国際競争力強化を図る。

【達成目標】

商談会への延べ参加企業数 H18： 156 社 H22： 230 社

【20 年度効果】

25 社（H19： 175 社 H20： 200 社）

オ 団塊の世代及び女性の起業支援事業費（産業振興部） 6 百万円【新規】

起業を目指す団塊の世代及び女性を対象に、コーディネーターが一定期間、事業計画の立案等についての個別アドバイスを行う起業塾を新たに実施する。

【達成目標】

団塊の世代及び女性の起業者数 H18： - H22：30人

【20年度効果】

10人（H19： - H20：10人）

カ ものづくり産業活性化支援事業費（産業振興部） 14 百万円

市内中小製造業者等を対象に、新製品開発や既製品の改良、人材育成、企業間ネットワークの構築に対する支援を行うことで、ものづくり産業の競争力や成長性の向上を図る。

【達成目標】

「新製品開発・既製品改良」補助件数（累計） H18： - H22：16件

【20年度効果】

5件（H19：4件 H20：9件）

キ 勤労者対策促進費（雇用推進部） 6 百万円

勤労者の労働・職場環境を改善するため、仕事の悩み相談室の運営やメンタルヘルス対策として企業に専門スタッフを派遣するほか、労働・職場環境に関する調査や研究、啓発事業などを行う。

【達成目標】

仕事の悩み相談室利用者数 H18： - H22：200人

【20年度効果】

50人（H19：150人 H20：200人）

ク 就業サポートセンター等事業費（雇用推進部） 100 百万円

ハローワーク等との連携による職業相談・職業紹介や、女性・中高年齢者を対象とした再就職支援事業に加え、新たにシニア向け（60歳以上）の体験型再就職支援事業を行う。

【達成目標】

再就職支援事業の受講者数 H18：867人 H22：1,300人

【20年度効果】

120人（H19：800人 H20：920人）

ケ 若年層就業体験支援事業費（雇用推進部） 32 百万円

就業体験やビジネス基礎セミナー、キャリアカウンセリング等を実施し、職業人としての基礎的能力の習得、職業観の涵養を図ることで、若年求職者の就業を支援する。

【達成目標】

受講者数 H18:152人 H22:600人

（「若年層に対する就業支援事業」全体による受講者数

H18：596人 H22：1,000人）

【20年度効果】

400人（H19：200人 H20：600人）

2 札幌らしい新産業の育成と企業の誘致

207百万円（97百万円）

注：（ ）内は19年度予算額

ア 「食のまち・札幌」推進事業費（産業振興部） 21 百万円

スイーツ王国さっぽろ推進協議会や洋菓子の先進都市である神戸との連携を図り、「スイーツの街さっぽろ」を道外へ発信するとともに、市内食品関連企業に対する食品見本市や商談会への出展支援等を行い、食関連産業の振興を図る。

【達成目標】 スイーツ王国さっぽろ推進協議会への参画会員数

H18：85社 H22：170社

【20年度効果】

15社（H19：130社 H20：145社）

イ 札幌スタイル推進事業費（産業振興部） 23 百万円

札幌の高い都市イメージを活用した「札幌スタイル」というコンセプトのもと、デザインコンペ等の開催やインターンシップ等の人材育成事業を推進し、市内企業の競争力強化を促進する。

【達成目標】

札幌スタイル関連イベント参加者数 H18：2,444 人 H22：3,000 人

【20 年度効果】

100 人（H19：2,600 人 H20：2,700 人）

ウ さっぽろコンテンツマーケット創出事業費（産業振興部） 56 百万円

札幌国際短編映画祭を中心に集積したショートフィルムなどを商業取引につなげるために、映画祭期間中に限らず、年間を通じて取引が行える「さっぽろコンテンツマーケット」を創設し、コンテンツ産業の振興を図る。

【達成目標】取引可能な映像作品等の集積本数（累計）

H18：1,500 本 H22：10,000 本

【20 年度効果】

1,700 本（H19：3,300 本 H20：5,000 本）

エ さっぽろバイオクラスター構想“BIO-S”推進事業費（産業振興部）

10 百万円【新規】

道内の大学と連携したバイオ分野における研究開発を加速させ、道央地域に国際競争力のあるバイオクラスターの形成を促すことで、市内バイオ産業の育成・振興を進める。

【達成目標】

この事業によるクラスター形成数 H18： - H22：50 社

【20 年度効果】

10 社（H19：20 社 H20：30 社）

オ 企業誘致促進事業費（産業振興部） 94 百万円

地域経済の活性化や新規雇用の創出が期待でき、かつこれまで積極的に本市が振興してきたIT産業・デジタルコンテンツ産業・バイオ産業の企業誘致を促進する。

【達成目標】

当該事業による誘致企業数（累計） H18： - H22：15社

【20年度効果】

5社（H19：3社 H20：8社）

カ 魅力ある食づくり推進事業費（農務部） 3 百万円

果実を中心とした地元食材の見本市（スイーツマルシェ）を開催し、地元農業者の生産物と菓子店等の需要をマッチングさせることで、地元食材の販路拡大や新たな商品開発等を推進する。

【達成目標】

スイーツマルシェ集客数 H18：350人 H22：500人

【20年度効果】

200人（H19：200人 H20：400人）

(2) 安全・安心で、人と環境にやさしい街

1 地球環境問題への対応と循環型社会の構築

3 百万円 （ 3 百万円 ）

注：（ ）内は19年度予算額

ア 環境保全型農業支援事業費（農務部） 3 百万円

環境にやさしい農業を目指し、家畜排せつ物等を活用した良質な堆肥を耕種農家へ供給する仕組みづくりを行うなど、地域における有機資源を利用した農産物づくりを推進する。

【達成目標】

堆肥散布量 H18： - H22：1,200t

【20年度効果】

300t（H19：300t H20：600t）

4 事務事業の見直し等

(1) 事務事業の見直し

一般事務費の節約や、効率的な執務による時間外勤務手当等の抑制

<見直し額 48 百万円>

補助金の合理化等の見直し

<見直し額 34 百万円>

(2) 事業の選択と集中

第2次新まちづくり計画の実現に資する事業等に重点化するため、(1)以外では次の事業費を主に抑制し、事業費全体を圧縮した。

北海道サハリンビジネス交流支援協会等、団体負担金の削減

<見直し額 1 百万円>

コミュニティ型建設業創出事業や都心にぎわいづくり事業において、民が主体となる事業への移行を視野に補助金を段階的に削減

<見直し額 3 百万円>

札幌スタイル事業におけるユニバーサルデザイン推進事業等、これまで市が直接委託・実施していた業務を、民との連携により実行委員会を設立するなど事業主体を民へ段階的に移行したことによる経費の削減

<見直し額 1 百万円>

出資団体改革プランに基づき、財)札幌市中小企業共済センター事業費貸付金を廃止し、財団が自主財源で事業を運営

<見直し額 25 百万円>

元気がんばれ資金を創設することに伴い、小規模事業資金等事務費など、2事業を統廃合

<見直し額 7 百万円>

なお、市民へ直接的に影響を与える見直しについては下記のとおり。

中小企業アドバイザー事業について、登録アドバイザーを中心とした事業へと見直しを図り、常用アドバイザーを廃止

<見直し額 10 百万円>